

## 平成30年度 大分県校友会定時総会

大分の桜の開花宣言は3月22日でした。開花宣言から大体一週間で満開となるのですが、今年は寒の戻りというか花冷えの日が2、3日続いたせいで、大分県校友会の定時総会が開催されたこの日も桜はまだ満開の状態でした。

筆者は大分県の県北に位置し、山国川を県境として福岡県に隣接する中津市に在住しています。中津市といってもご存じない方も多いかと思いますが、人口8万ちょっとの地方小都市で、福澤諭吉の故郷といえお分かりになるかも知れません。残念ながら2004年11月から発行されている1万円札は2024年には福澤先生から渋沢栄一氏にバトンタッチ。一抹の寂しさを感じます。福澤先生20年間お疲れ様でした。また、歯科医師第1号の小幡栄之助先生も中津市出身です。

郷土の自慢話はこの位にして、平成31年4月6日(土)当日の午後、日豊本線の特急ソニックに乗車し、車窓越しに満開の山桜や道路沿いのソメイヨシノを眺めながら50分ほど、別府を過ぎ大分に近づく車内には「世界の車窓から」のナレーションでお馴染みの俳優の石丸謙二郎(大分出身)の大分観光のアナウンスが流れます。

気温20度、春うららの昼下がり、大分駅前近くにあるオアシスタワー4階、音の泉会議室で会員21名参加の下、平成30年度定時総会が開催されました。

田川尚之県校友会副会長(68回)が開会の辞を述べた後、物故会員の黙祷を行い、森澤宣生県校友会

会長(61回)が挨拶。今回は久しぶりに栗林大介会員(95回)と澤田幸作会員(96回)と、2名の新入会員がありました。入会のお祝いを渡して挨拶をしていただきました。

引き続き、野々下志寿子会員(76回)が議長に選出され、議事に入りました。角野太一県校友会専務理事(71回)より会務報告が行われ、利光史規県校友会常務理事(72回)から平成30年度の一般会計の現況、基金会計の現況の説明があり議題に入りました。角野専務理事より第1号議案の2019年度の事業計画、利光常務理事より第2号議案の2019年度一般会計予算案、第3号議案の基金会計予算案、第4号議案の会費徴収法の説明があり、賛成多数で承認されました。田川副会長が閉会の辞を述べ、定時総会は無事終了しました。

引き続き、来賓として近藤勝洪校友会本部会長のご挨拶をいただき、平成31年の国家試験の結果やそれを取り巻く現状、また日本歯科医籍(1号~29号)までの貴重な資料を携え歴史的なお話もしていただきました。次に、山瀬勝 附属病院准教授(81回)をお招きして「メタルフリートリートメント2019 知っておきたい知識と成功のポイント」と題して講演をしていただきました。歯冠修復の材料は進歩が早く、3ヵ月経つと新しい材料が次から次に登場し、追いついていくのが大変です。最新の知識をご教授いただき、勉強にもなり、刺激にもなりました。

懇親会は近藤会長の「大分に来たらフグを食べてどうするね」と、たっの希望で場所を近くにあるふぐ良別館に移動し開催されました。フグの旬は秋のお彼岸から春のお彼岸までといわれており、特に1月、2月は白子が絶品です。冬に大分にお見えになったら本場のふぐ料理が堪能できますよ。

懇親会には大分県歯科医師会より柴崎明彦副会長も参加していただき、ひれ酒を飲みつつ、ふぐ刺し、から揚げ、ちり鍋、締め雑炊を食べながら時間も忘れ話の花が咲き親睦を深めることができました。

(長岡良志彦・70回記)

